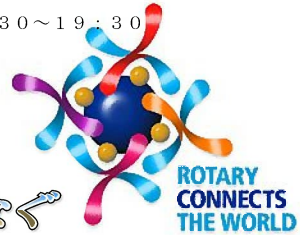


# 皆野・長瀬ロータリークラブ

## 週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30  
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭  
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内  
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134  
 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp  
 ◇点 鐘 畝 徳治会長  
 ◇ソング 奉仕の理想



ロータリーは世界をつなぐ

## 第1485回例会 令和元年9月5日(木)

### 【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。現在明治時代の学問のすすめという文の中の部分を抜粋して紹介さ南せて頂いております。

前回読んだ箇所、政府と人民との関係は同位であると言っていました。そうは言ってもこの考えが直ぐに実践されるものではなく、福沢の生きた時代の政府と人民との実情について、次のように嘆いています。

近日に至り政府の外形は大いに改まりたれども、その専制抑圧の気風は今なお存せり。人民もやや権利を得るに似たれども、その卑屈不信の気風は依然として旧に異ならず。この気風は無形無体にして、にわかになんか一人につき一場の事を見て名状すべきものにあらざれども、その実の力ははなはだ強くして、世間全体の事跡に頭わるるを見れば、明らかにその虚にあらざるを知るべし。

青年の書生わずかに数巻の書を読めばすなわち官途に志し、有志の町人わずかに数百の元金あればすなわち官の名を借りて商売を行なわんとし、学校も官許なり、説教も官許なり、牧牛も官許、養蚕も官許、およそ民間の事業、十に七、八は官の関せざるものなし。これをもって世の人心ますますその風に靡き、官を慕い官を頼み、官を恐れ官に諂い、毫も独立の丹心を発露する者なくして、その醜体見るに忍びざることなり。譬えば方今出版の新聞紙および諸方の上書建白の類もその一例なり。出版の条令はなはだしく厳なるにあらざれども、新聞紙の面を見れば政府の忌諱に触るることは絶えて載せざるのみならず、官に一毫の美事あればみだりにこれを称誉してその実に過ぎ、あたかも娼妓の客に媚びるがごとし。またかの上書建白を見ればその文つねに卑劣を極め、みだりに政府を尊崇すること鬼神のごとく、みずから賤しんずること罪人のごとくし、同等の人間世界にあるべからざる虚文を用い、恬として恥ずる者なし。

福沢は、新聞が、政府を批判的に見ないことや、政府を褒める過ぎることなどを問題だと考えています。別の個所で、官尊民卑を嘆いています。福沢が生きた時代の様相は、現在にも通じる状況のような気がします。



### 【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所よりロータリー一文庫決算書
2. バギオ基金よりバギオだより  
以上がきています。

## ガバナー補佐卓話

R I 第2570地区

第4グループガバナー補佐

村田 貴紀様



皆さん、こんにちは。先ほど17点の書類を確認させて頂いた際にすごく昼食が美味しかったという、今回9回目の補佐訪問ですが、全部が作りたての物が出て来て、それで千円だという事で、随行の2人も絶賛していました。機会があればメーカーキャップに來たいと思っております。

この度、第4グループガバナー補佐を拝命致しました村田貴紀と申します。僭越ですが、お役目ですので、卓話をさせて頂きたいと思っております。

まず、自己紹介をさせて頂きます。年齢ですが、現在48才となります。9クラブ回っておりますと息子より若いよねとか言われたりもします。若輩者ですが、一生懸命頑張っていますので、よろしくお願い致します。子供は22才の息子と20才の娘がおります。職業は、東京中心に不動産管理をしております、数年前より世田谷区に居住しております。ロータリーの際はこちらの方に来ております。

今年度のテーマについてマーク・ダニエル・マローニー会長は、国際ロータリーテーマとして「ロータリーは世界をつなぐ」鈴木ガバナーは地区テーマとして「つなげる：未来へつなぐ」「変化：変える（基本に戻る）」を掲げられました。今年度は繋ぐとか繋げるが多くございます。

私の解釈で考えますと、まずロータリーはボ

スのいない社会であろうとも思います。それがために各役職はすべて1年毎に後退するルールもあります。ロータリーでは競争という事も出来るだけ避けて、普段競争社会にいる我々がつかの間の温かい心で、要は繋がろうというものがあるがそのロータリーの目的であるとも自分自身考えております。鈴木ガバナーの思いや内容につきましては、公式訪問時に鈴木ガバナーより話があると思いますので、補佐訪問では、第4グループでの活動のお願いと自身のロータリー観をお話させていただきます。

今年度は第4グループとして繋がりも視野に入れて考えましたが、11クラブ提唱にて台湾での医療巡回車寄贈のグローバル補助金事業がスタートを切っています。申請書は出来上がりました、台湾の地区とも調整を取りながら、R Iへ申請はあがっております。総額9万9千ドルの事業となりまして、日本円で1千百万くらいの大規模な事業となります。セレモニーにつきましては、向こうの地区とも調整しておりますが、12月もしくは1月になるそうです。また台湾との調整後に日程が確定しましたらお知らせ致しますので、その際は皆様のご協力をお願い致します。

次に自身のロータリー歴についてお話させていただきます。38才でロータリーにご縁の頂きまして、今年で10年目となります。令和元年に10年目という事で、忘れられない令和元年になるのかなと思っております。まだ10年の若輩者で大先輩を前にガバナー補佐という大役を仰せつかり、何回クラブを回っても緊張は取れないだろうという気がしますし、重責で潰されそうな勢いです。2016~17年度に会長という機会を頂きました。その際、本日お越しになっている河原さんに幹事としてお世話になりました。財団に7年間お世話になり、会長時にもお世話になっていました。昨年度財団補助金委員長を最後にして財団は卒業という形になりました。今回補助金委員長で勉強した事でグローバル補助金の事業が出来ればと思い、進めさせて頂きました。第4グループ11クラブさんのご承認を頂きありがとうございます。途中財団とR L Iの委員も兼任で勉強させて頂きました。R L Iも平行して5年間勉強しております。会長をお受けする時にR L Iは広く浅く知識が勉強出来ますので、会長としてすごく楽だったのを思い出します。

入会当初より親クラブの加藤パストガバナーからは、よくロータリーは自分の未熟さを知る場所であるのご指導頂きました事を常に念頭にに入れておりますが、痛感しております。

1985年、86年のR I会長のエドワードカドマン氏がロータリーウィズダムに掲載した文がありますので、ご紹介させて頂きたいと思っております。「誰もがこの世を変えようとしてロータリーに入ったわけではありません。大部分の人は、仲間が広がる機会を求めて入会したのです。ロータリーの深い影響はゆっくりとやってきました。私たちは、ゆっくりその精神に身を浸していったのです」さらにカドマン氏は「ロータリー精神は一言では表現できないけれども、友情、コミュニティサービス、あらゆる人の職業の理

解、フェロシップを含むものであります。入会には派手なものではなく、平々凡々としたものでしたが、徐々に変化が起こり、単なる人であることから、ロータリアンへの変化が始まりました。あたり前の酔生夢死の生涯から意義ある運動を援助する方法を見つけ出した人の生涯へと移っていったのです。超我の奉仕について学び、信じた時に、善の網の中に取り込まれました。ロータリアンは生まれるものではなく、かくして作られるものなのです。ロータリアンに変身していく、ゆっくりとした過程そのものに大きな価値があります」このように述懐をされております。ある日、突然ロータリアンになるわけではないという事です。そして「ロータリアンとしての歳月を重ねると、そこから受ける人間的温かさや愛情、これはロータリーに尽くし得る事により、圧倒的に大きなものであることが分かって参ります」と述べられ、温かい人柄になれるという事が一番大きいのであり「他に何が得られるかなどという議論をする気は毛頭ありません」と言っておられます。要するに、ロータリーは仲間を愛する人間になるための場所である自分自身も考えております

1991年から92年の当地区の森三郎パストガバナーは「良き人達が友を求め、あるいは友情を深めるための組織がロータリーである」と申されております。奉仕という言葉が、見当たらないと思いましたが、それが良き人達というキーワードに入っているそうです。また森パストガバナーはギスギスと堅く考えたロータリーよりもふわっと柔らかく捉えたロータリーであってよろしいと。時代によって流行もありませんが、変わらないものとはそういう確信であるとも申されております。

次に例会についてお話しします。入会当初、いきなり歌を歌い出してびっくりした事を思い出します。「手に手つないで」では、本当に手をつないだときに何が始まるのだろうと困惑したのも思い出します。初めは本当にとんでもない場所に来てしまったと思った時のございました。しかしながら、このような経験をさせて頂いた10年間の中で、癖になるものだなと。今となつては、歌詞を見ずに自然と歌えるし、自然と手を振ってにこにこで手に手つないで歌えるんです。不思議なものだなと思っております。

また当地区の森パストガバナーは「例会出席は癖なのです。同じように欠席も癖なのです。何だか分からないけれども出席しないと気分が良くないという癖をつけてしまう事が一番大事な事なのです」と言っておられます。確かに例会に出席しているうちに、いつの間にかロータリーから抜け出せなくなってしまったロータリアンの方達も多いのではないのでしょうか。ロータリーアンになっていない自分自身もいつの間にか抜け出せなくなっているからこそ、ここに立っているのかなと思っております。

どうしてこのようになるのか森パストガバナーは巧みに例を挙げて説明しております。昔、大店の家訓に番頭は用があるがなかるうが火鉢を抱えて店先で座っているというのがありません。つまり番頭は仕事があるから店先にいるのではなく、番頭が店先にいつも座っているか

ら仕事が出てくるのです。ロータリーについても同じ事が言えます。出番があるから例会に出る。用事があるからロータリーの行事に出席するというのではなくて、癖になるまで出席してみろという事だと思います。自分自身も3年目で財団へ行きなさいという事で地区へ出て、勉強させて頂きましたが、1年目、2年目は座って食事をして帰る。それだけでした。今は時代が変わって、新会員にどんどん声を掛けて「こうです」となりますが、昔のロータリーは座って食べて帰る。しゃべる事はありませんでした。でも癖になって、その中で覚えるものはすごくたくさんあります。それで良かったのかなど。それなりの緊張感、人間はほどよい緊張感が大事だと思っております。

ポールハリスは、その生涯におきまして3冊の著書を執筆しておりますが、その一つである「ロータリーの理想と友愛」の中で次のように述べております。「世界は絶えず変化しています。そして、私たちは世界と共に変化する心構えがなければなりません。ロータリーの物語は何度も書き換えられなければならないでしょう」と。その目に見える形は時代と共に、その時代のロータリアンが作っていかないとみませんが、その奥にあるロータリーの心やフェローシップは変わらない。これこそ変わってはいけないとも自分自信は思っております。フェローシップを育てていく肥料となるものがここに書かれている4つのテストという事です。ポールハリスもこう言っておられます。「ロータリーは何かを定義づけることは困難だけれども、ロータリーが何を成したかを語るのは容易であると。「ロータリーに力づけられて人生に対し暖かな見方が出来るようになり、心が広くなり、他人の美点を見いだせるようになり、喜びを分かち合おうとするふれあいの和が広がったなら、それでロータリーは私の期待する全てをもたらしてくれたのです。更にロータリーは柔らかで、しかも強い味わいを持つてくるのではないかと思ひ、ロータリーは奉仕のための団体であるというよりも、最も人間らしい人間になろうとする人達の集まりであるといった方が自然でありますし、良い人達の集まりであれば、いろんな地域、国際にしても良い事をしようという動きが当然であると申しております。

ロータリーの歴史には節目があったようです。いずれの時期にも中心になるのはフェローシップであると思ひます。フェローシップの重要な場所が例会であるとも自分自身考えるようになります。森パストガバナーは、例会に出席していればこそ、メンバーとの交流も深まり、仲間を知り、自分も知られるようになります。出席していれば、声を掛けてもらえます。始めに受けたのが社会奉仕委員長でした。公演に植樹をしました。そういうところは1年、2年辛抱です。皆さん、見えます。言わないけれども見えておられます。だから緊張しています。そうやって、初めてクラブの役職を仰せつかって出番が出てきます。1つの出番が出て来ると、その仕事に吸い寄せられるように次から次へと出番が回ってきて、仕事に面白みが出てくるのが自然の勢いです。癖で出席したとしても、出席

していれば、思いがけない所から出番がやってきて、また出番が、出番を読んで、晴れの舞台が晴れの舞台を呼んで、クラブライフの面白さがじわじわと濃くなっていくというのがロータリーの持ち味ですと森パストガバナーは強調しておられます。

ロータリーはロータリアンになって初めて分かるという性質の楽しみだと思っております。ロータリーに入会して毎例会の出席を繰り返しているうちにロータリアンへの脱皮、変身が徐々に始まることも。まず必要な事は、自分自身あまり能力が無いもので前向きにチャレンジを試みる事。そして癖になるまで続けてみる事。バカになってやっておりますと、だんだん見えてくる何かがございます。水の底から何かが浮き上がって来て、少しずつ形が分かっていくのと同じように次第、次第に心の鏡に映ってくるものがございます。それがロータリーですとも申されております。様々なロータリーに対する考えや思いがございますが、ここにも一つロータリーの魅力があると自分自身は感じております。

まだまだ10年の若輩者ですが、最近少しは理解をして、感じるようになってこられたかなとも思っております。入会してロータリーでは「はい」か「イエス」だと先輩方よりご指導頂いて参りました。初めは何を言っているんだろうと思う部分もありました。最近それもそうかなと思うようになった自分がございます。「はい」か「イエス」で自分の出来る範囲でお受けしておりますと、多少見えてくるものがございます。ロータリーが見えるというためには、心眼を磨かなければ、手続き要覧、財団の規則、肉眼で見えるロータリーの表面以外は見えてこないのだなと、まさに自分自身が思っております。またロータリーが見えるために、例会があり、自分の出来る範囲で受けられる時には受けてみようかなというものもございます。

皆様から見て、ガバナー補佐として不甲斐ないかもしれません。しかし、皆さんにはロータリーというものが見えているかもしれませんが、自分はまだ見えてないです。これから先、何が見えるのかなど。更に皆さんからご指導を戴き、吸収して、言葉ではなくて、感じて見えるようになりたいと。自分自身は、まだまだこの旅が続くのかなと思っております。

まとまりがございませんが、10年間ロータリーにお世話になりました自身のロータリー観をお話させて頂きました。最後になりますが、これから公式訪問がございます。鈴木ガバナー年度、ガバナーが決まらない地区で、受けてくれて感謝しております。鈴木ガバナー年度へのご支援とご協力をお願い申し上げます。ガバナー補佐としての卓話を終わらせて頂きます。

## 出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
11	0	7	1	72.7%





本庄南ロータリークラブ

幹事 戸谷 充宏様

私はまだ入会して2年半少しくらいです。村田さんとは年齢で48で一緒ですが、理解度が違います。長瀬さんの例会場に来て、緑が溢れていて、食事が美味しいし、良い例会場です。

熊谷高校に通っていた頃に40キロハイクというものがあり、ここがゴールでした。緑の場所がゴールだったという事をすごく覚えていて、この緑があふれる例会場で補佐の随行が出来た事にうれしく思います。

これからまだまだ勉強致しますので、ご指導をお願い致します。

本庄ロータリークラブ

河原 淳様

村田ガバナー補佐もおっしゃっていましたが、素敵な場所で例会が出来てうらやましいと思います。本庄南ロータリークラブは予算の関係、会費の見直しして、会場の方がホテルから市民の集まるはにぼんプラザで例会をやるようになって、なかなか

かこういう例会場に来るのはおもしろく感じました。この先、紅葉も綺麗だと思いますので、皆さんでメーキャップしたいと思います。

私も入会歴があまりないのですが、宮前さん、高田さんの時に幹事、幹事、会長という事で3年間村田さんとやらせて頂いて、宮前さんには親しくしてもらって、感謝しています。

またこちらに来たいと思いますので、よろしくお願い致します。



四つのテスト

長岡 倉雄会員

いつも4つのテストの前に一言みんなのためになるかどうかの話をするのですが、今日はガバナー補佐訪問になっておりますので、一言、二言言って頂けると幸いですので、省略したいと思います。

それでは4つのテストのご唱和お願い致します。

ニコニコボックス

♪ 9ヶ所目の補佐訪問となります。本日はよろしくお願い致します。

第4グループガバナー補佐

村田 貴紀様

♪ 村田ガバナー補佐のカバン持ちで参りました。本日は皆様、どうぞよろしくお願い致します。

本庄南RC 河原 淳様

♪ 村田ガバナー補佐の随行で参りました。本日はよろしくお願い致します。

本庄南RC 戸谷 充宏様

♪ ガバナー補佐をお迎えしての例会、ありがとうございました。

畝 徳治・山田 利明・新井 通雄  
宮前 英雄・長岡 倉雄・高田 富康  
小林 一夫

合計 10,000 円

